

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 25 年 12 月 20 日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491100289		
法人名	株式会社 アーバン・ケア		
事業所名	グループホーム なでしこ		
所在地	尾道市吉和町5 1 2 2 番地 1 (電話) 0 8 4 8 - 2 5 - 2 7 7 2		
自己評価作成日	平成25年12月3日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	なし
-------------	----

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	平成25年12月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>開所してまもなく2年が経過する。 この間に25名の入居者さんとの出会い、そして8名の方々との別れがあったが、ケアの流れも定着し、職員側からも毎日がマンネリ化しないような改善や提案も出るようになった。 また、ご家族の皆さんとの情報共有も心掛け、ご家族と施設の両方で入居者さんの生活を支援する体制を構築している。そのほか、敷地前の菜園を区分けして地域の方に貸し出したり、地元の民生委員さんが町内の行事参加や幼稚園との交流の橋渡しをして下さったり、近隣の同業施設「にしぎこの家」さんとの交流も行なっている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>このホームでは、利用者の皆さんが落ち着いて生活できるように、木のぬくもりのある和風のインテリアで統一している。ここでは、利用者が家庭的な雰囲気の中で和気あいあいとゆったりと過ごされている。また、職員は利用者と一緒に話す時間を作り、その方の思いを把握し、その方の行動を理解し、利用者を温かく笑顔で見守るよう努めている。事業所は、地域の清掃や行事に積極的に関り、地域に溶け込む努力をし、また利用者は地域の敬老会に招待されたり、近所の保育園児との交流を楽しんでいる。また、近隣のグループホームとは互いに交流したり、災害時には協力するような良好な関係を築いている。このホームでは、職員が楽しく働ける環境づくりにも取り組んでいる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「地域との交流」を盛り込んでいる基本理念を玄関ホールと両ユニットの見易い場所に掲示し、スタッフに周知させている。	母体法人の理念を、事業所の基本理念とし、玄関ホールに掲示し、職員は理念に沿った行動をするよう努めている。また、今後は、事業所独自の理念を作成することを検討している。	職員への理念の周知や理念の実践については、もう少し取り組む必要があると思われる。例えば、理念の下に分かりやすい年間行動目標を設定し、職員全員で取り組み達成度を評価するなどして、理念の定着に努めていただきたい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	町内会に加入し、地域の清掃作業や敬老会、祭りなどの催しに招きを受けている。また、近隣の「にしごこの家」さんや幼稚園との交流も持っている。	事業所は、町内会に加入し地域清掃や行事などに積極的に関り、地域に溶け込む努力をしている。近隣のグループホームとも交流し良好な関係を築いている。また、利用者は、地域の敬老会に招待されたり、近所の保育園児の訪問などで交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	敷地前に掲示板を設置し、地域に向けて施設だよりや行事などの取り組みの紹介写真を掲示している。また、地域の施設周辺の散歩時に、地域の住民の方々に積極的に挨拶や会話をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	隔月ごとの運営推進会議で、施設内での行事や出来事を見易い資料で紹介している。また、会議中に出た意見を議事録にまとめ、参加頂いた方々の他に、入居者のご家族全員に送付している。	運営推進会議は、事業所の家族会も兼ね毎回数名の家族が出席し、地域住民代表として、民生委員や近隣のグループホーム管理者も参加している。議事録は全家族に送付し報告している。地域代表の民生委員の橋渡しにより、近隣の保育園との交流が始まった。	今までの会議は、地域代表・家族などが参加し開催されているが、活発な意見交換の場とはなっていないようである。今後は、地域住民に呼びかけて様々な職種の方に参加してもらい、会議を活性化し、出席者の意見を事業所のサービス向上につなげていきたい。
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	施設内で発生した病院受診をともなった事故は、ご本人の様子やご家族への伝達の内容を遅滞なく報告している。	運営推進会議の案内や議事録を市担当者に送付し、良好な関係を築くように努めている。地域包括支援センターからの相談にも応じている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束に関しては、実際のケアの場面で気が付があればその理由を交えて指摘をしている。玄関の施錠については、建物玄関周辺の見守りが行き届きにくい構造であるためやむなく行っている。</p>	<p>「身体拘束」や「虐待」について施設内で研修で職員に周知している。日常の業務の中で、個々の事例について、身体拘束をしない必要性について説明し、具体的にケアの実践を指導している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>結果的には虐待に通じる恐れのあるケアについても、その発生の可能性を指導して未然に防いでいる。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>成年後見人が就いている入居者さんについて、後見制度のあらましや仕組みをカンファレンスの場で随時説明している。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>入居契約時以後も、質問や疑問点の問い合わせがあれば随時お応えをしている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>隔月ごとの運営推進会議のなかで、ご家族の思いや意見を述べて頂く機会をもうけたり、玄関ロビーに「苦情受付箱」を設置して、随時質問や要望を受け付けている。</p>	<p>隔月に開催される家族会や家族の面会時に、家族の意見・要望を聞いている。家族からの要望は、連絡帳に記入し、職員間で情報を共有している。「職員の名前が分かるように」との家族からの要望で、玄関に職員の顔写真を掲載し紹介している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>毎月末にはスタッフミーティングを開き、意見や提案を検討する場を設けている。</p>	<p>月1回のミーティングで職員の要望を聞いている。職員の要望により、食事作りにかかる時間を短縮する為に、食事の一部を両ユニットで同じ内容にし、助け合うようにした。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>超過勤務は極力発生しないような業務体制をつくり、タイムカードの確認は現場管理者と代表者として2重に行い、やむをえず発生した超過勤務や通常勤務時間の計算にモレがないようにしている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>職員の経験値や技量をみながら外部への研修参加の機会を見計らっているが、未だ全員は参加できていない。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。</p>	<p>近隣の「にしごこの家」さんの行事に参加させて頂くなどの交流を行なっている。</p>		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。</p>	<p>本人に関する生活歴や病歴などの情報をあつめ、それらをもとに会話を行って信頼関係を創るよう心掛けている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>入居時の会話のほか、ご家族の入居者さんに対する思いを書面にして、内容を把握する努力をしている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>入居直後は可能な限りご家族に来所面会をお願いしたり、電話によるご様子の報告をしている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>可能な方には家事を積極的に行って頂いたり、全員で「いただきます」の合図にあわせて食事を食べるなど、共同生活のスタイルを維持している。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会時以外でも、施設だよりなどで行事の参加案内をしたり、電話による生活の様子を伝達している。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>ご家族のご要望がない限りにおいては、親族やご友人の面会のお断りや時間の制限は行っていない。</p>	<p>馴染みの関係継続の為に、今まで利用していた美容院に連れて行ってもらうよう家族にお願いしている。利用者は今までのかかりつけ医に受診している。また、買い物の際に知人と出会ったら、話す機会を作るようにしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	仲の良い入居者さん同志の交流は積極的に行い、そうでない方はスタッフとのかわりを重視して孤立しないよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後も、近隣に住むスタッフが随時自宅を訪問してその後の様子を伺っている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	思いをうまく表出しにくい方には、時間をかけて丁寧なかかわり方を心掛けたり、外出を望まれる方には、極力その機会が持てるよう努力している。	出来るだけ利用者と一緒に話す機会を設け利用者の思いを把握するようにしている。利用者毎に担当を決め、利用者の思いを把握しケアプランに反映するようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	前任の担当ケアマネージャーから可能な限り入居前の情報を集めたり、生活歴や病歴などを詳しく記入して頂く書式を用意し、入居時にご家族に記入をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	医療に関する事項や生活上の気付きなどをそれぞれ記録して、いつでもスタッフが閲覧できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月末にスタッフによるミーティング（カンファレンス）を行い、個人ごとにケアでの気づきや提案を検討している。</p>	<p>利用者毎に担当者を決め、アセスメントを行っている。ケアプランの実施状況は、ケアカンファレンスで職員全員で協議しケアプランの見直しにつなげている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>一日ごとに入居者さんの生活の様子を時系列に書き込む書式を用意し、スタッフが自由に書き込んで情報を共有するよう心掛けている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>その必要がある都度、スタッフミーティングを開いたり、他の系列グループホームの取り組みを参考にして、ケアがワンパターン化しないよう心掛けている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>散歩時に顔なじみの近隣住人の方との会話を楽しんで頂いている。また地域の商店への買い物にも同行してもらった際も、顔なじみの方と出れば会話を楽しんで頂ける時もある。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>定められた定期的な往診以外の受診はご家族にお願いしているが、緊急時は施設が行っている。そこでの診察内容や指示などは、遅滞なくご家族に連絡をしている。</p>	<p>ホームとしては、今まで受診していた医師をかかりつけ医とし、継続して受診してもらっている。入居者の受診状況などについては、「医療記録」に職員が記載し情報を共有している。体調不良時には、各医師に連絡し対応している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	看護職員の出勤時に、記録簿を閲覧してもらったり、口頭にて日頃の様子を伝えている。		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	施設内での個人記録は常に最新の情報を載せ、入院先に伝えるようにしている。また、お見舞いを兼ねて病棟の担当者に病状や今後の経過を随時尋ねている。		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	未だ、施設内での看取りを要す入居者さんはおられないが、先々その必要があった場合に備え、入居契約時に「看取り」についての事業所の指針を説明している。	ホームとしては、家族からの要望があれば、看取りを行う方針である。入居契約時には「看取りについての事業所の指針」を家族に説明し了承してもらっている。重度化した際には、家族・医師と話し合いを行い、適切な支援を行う考えである。	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	緊急時の対応についてはマニュアルを作成して、すぐに手に取る事ができる場所に置いている。		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	緊急避難訓練を実施している。また「にしごこの家」とも連携をとり、お互いの緊急時は地域住民への救助要請依頼ができるような連絡網を構築している。	消防署の立会いの下に夜間を想定した避難訓練を行っている。近隣グループホームや地域住民が参加した訓練では、実際に車椅子を使用し避難誘導を行った。近隣グループホームとは、災害時にはお互いに協力し、施設を避難場所とし、また地域住民との間では緊急連絡網ができています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	スタッフにはやみくもに敬語を使う事を一方的に強要せず「自分ならば」「自分の親族ならば」という形に置き換え、どんな言葉使いが適切かを各自で考えるように指導している。	職員ミーティングでは、「親しい言葉となれなれしい言葉」の違いを認識してもらい、安易に「ちょっと待って」と言わずに対応するよう指導している。日常の「声かけ」や「利用者に対する対応」についてアンケートを実施し、職員自身の行動を振り返り、ケアの見直しにつなげる取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	極力「～しましょう」ではなく「～しませんか？」という言葉がけを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	すぐに要望に沿えない場合は「～まで待って下さい」という言葉がけを心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	更衣の時、どの服がいいかを尋ねたり、汚れた場合はもちろん、衣類は毎日洗濯をして身なりの清潔を心掛けている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	好みに合わせたメニュー作りを行い、場合によってはその方に合わせた個別メニューの用意もしている。	利用者の要望により献立を立て食事を作っている。利用者が食べられない献立の際には、その方に合った食材に変更するなど柔軟に対応している。お好み焼きを一緒に作ったり、テラスでバーベキューを楽しむこともある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>個別の指示がある、カロリーや分量の制限がある方には、その内容をスタッフ間で周知させ、その摂取量はその都度記録して状況を把握しやすいようにしている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、必ず口腔ケア（歯ミガキ）を徹底している。また歯科医と連携して必要に応じて受診や往診を行っている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>必要な方には一定時間をおいて、定期的なトイレへの声かけや誘導を行っている。</p>	<p>出来るだけトイレで排泄してもらうように、各人の排泄パターンを把握しトイレ誘導している。ここでは特殊な手すりを設置し、便座に座って手すりに寄りかかり、腹部に力を入れ自力で排便し易くする工夫をしている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>水分摂取が困難な方も水分不足に陥らないよう、記録をみながらミカンなどの水分の多い食べ物を提供している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>清潔保持のため、必要な時は朝夕を問わず入浴を行っている。</p>	<p>2-3日に1回入浴するようにし、清潔保持のために必要があれば、その都度、シャワーや入浴により対応している。冬の時期には、浴室内の温度に気を配っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>本人の希望があれば、夜間に影響がない程度に昼寝の促しをしている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>直近の処方箋はスタッフが毎日閲覧する個人ファイルにとじ、注意事項があれば別途申送り記録にも書き込んで情報を周知させている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>個人記録にはそれぞれの生活歴を載せ、趣味や好みを把握したかわりを持つよう心掛けている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>希望があれば、散歩や買い物の支援を行っている。</p>	<p>天気の良い日には、出来るだけ散歩するようにし、車いすの方も一緒に出かけている。買い物や外出の要望があれば、可能な限り要望を叶えるように対応している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>希望があれば、ご家族にお願いして幾らかの現金を所持・管理してもらい、買い物時は自分で支払をしてもらっている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>要望があれば、自由に電話をしてもらっている。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>一日をとおして照明具合を配慮したり、温・湿度計を数か所に設置して、環境が快適なものとなるよう心掛けている。</p>	<p>利用者が落ち着いて過ごせるように、ホーム全体を木のぬくもりのある和のインテリアで統一し、テーブルや和風家具を配置している。利用者に季節を感じてもらえるように季節の花を飾り、その季節に合った飾り付けをしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>他方のユニットへの行き来や、自室への移動は自由に行ってもらい、ソファのレイアウトも随時変えている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>自宅から馴染みのものを持ち込んでもらったり、殺風景な部屋にならないようご家族やご自身の昔の写真をパネルにして掲示している。</p>	<p>各居室には、利用者の昔の写真や家族の写真をできるだけたくさん掲示し、利用者が落ち着いて生活できるように配慮している。各居室には、古風な和ダンスを配置し、落ち着いた雰囲気を演出している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>衣類のハンガー掛けを使いやすい高さに変えたり、歯ブラシ棚には個人名を書いて各自で出し入れをもらっている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホームなでしこ

作成日 平成26年2月19日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	隔月ごとの「家族会」に一般職員の参加が定例ではない (前回の継続)	施設運営の把握のため、一般職員の参加の機会を増やす	可能な範囲で参加ができる勤務体制を構築する	1年間
2	49	外出支援が入居者全員に行き届いていない (前回の継続)	全員の外出支援を行う	春以降に、ドライブを楽しんでもうらう	1年間
3	13	管理職以外、施設外研修に参加できていない (前回の継続)	研修参加の機会を増やす	順次、各自の能力に見合った研修の参加を促す	1年間
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。